

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第46回 全日本実業団バスケットボール大会	期間 2014年2月8日(土)~2月11日(火)
開催地 東京都	会場 東京体育館 国立代々木第二体育館
参加者 下 清孝	所属地区名 北見地区
<b>講師</b> 針生 敦男 氏(日本実業団連盟審判委員長 東京 AA) 黒岡 和哲 氏(日本実業団連盟副審判委員長 大阪 AA) 各都道府県実業団連盟ブロック長	
<b>審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など</b> 審判講習会開講式にて針生委員長より、各ブロックより代表されてこの大会の講習生として参加されていると思うので今自分の持っているものを全てコートに出せるよう頑張ってくださいとお言葉を頂きました。また、我々公認審判員は3日目の割り当てを勝ち取ることを目標に2日間の頑張ってくださいとお話して頂きました。	
<b>実技研修、座学研修等の記録</b> <b>講師 針生委員長 テーマ 審判技術向上への取組み方について</b> 数グループに分かれてディスカッションを行いました。内容は日々どうしているかを話し合い発表するという事です。感銘を受けましたのが、朝ご飯を食べながら動画(TV,PC etc)で研究しているという方がいらっしゃいました。また、皆さん勤務後等忙しい合間をぬってランニング、体幹トレーニング等日々努力を重ねていらっしゃるという方が大多数でした。	
<b>実践実技1</b>	
2014年2月8日(土)	対戦カード 男子 予選リーグ ホシザキ(東海1) VS 日新シール工業(近畿4)
副審 下 清孝	相手審判 岡山県 岩田 友幸氏 (中国ブロック長 A)
<b>ゲーム前のカンファレンス内容</b> ・トレール、リードの役割の確認 ・リバウンドに対するトレールの協力 ・エリア5を二人で判定すること	
<b>ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 東京 針生 敦男氏(本部 AA)</b> ・ファンダメンタルの確認、及び追求、実践 ・判定基準の一貫性 ・目的を持ったオールウエイズ・ムービング ・フィールザゲームをもっと判定に生かすこと ・社会人のゲームなので、社会人特有の手の使い方をやめさせる笛	
<b>ゲーム感想</b> 1P,2Pともにボール中心、精神的に空まわりしてしまったような感じで相手レフリーの方に多々判定を助けて頂きました。後半に入ると気持ちも落ち着き、普段の自分をコートで表現できたのではないかと自己分析します。相手レフリーの岩田さんには、カンファレンスからゲーム終了まで常に声を掛けて頂き、大変お世話になりました。 ゲーム後に針生委員長にアドバイスを頂いた一言で「難しいのは承知で要求するけど、フィール・ザ・ゲームを判定に繋げることを意識してやってみてほしい」とアドバイスを頂きました。	

実践実技2	
2014年2月9日(日)	対戦カード 男子 予選リーグ 三菱東京UFJ銀行(関東8) VS 三菱重工長崎(九州2)
主審 下 清孝	相手審判 愛知県 片山 誠太氏 (講習生)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア3のトレール、リードの引き継ぎ</li> <li>・ボクシング・インを40分間意識する(tryすること)</li> <li>・リードが右に来た時のトレールの対応(協力、分担)</li> <li>・ゲーム中もアイ・コンタクトを取り常にタイム・アウト時等以外でもコミュニケーションを取る。</li> </ul>	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 大阪 黒岡 和哲氏 (本部 AA)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リード時に右に行くときにエリア4のプレイヤーを視野から消えているので、きちんと視野を残しつつ右に行くのが良い。</li> <li>・ 体の向きをインサイドからアウトサイドに向けるのではなくアウトサイドからインサイドに向け視野を取る意識</li> <li>・ プレゼンテーション(スタイル、立ち振る舞い、T.Oコールetc)は非常に良いと思うので、さらによくなるよう意識して欲しい。</li> <li>・ UFJ銀行の手のファールをもっと丁寧に判定した方がゲームはよりクリーンに進んだのではないかと。</li> <li>・ 講習生同士、二人でよくゲーム運営をしていたと思う。</li> </ul>	
ゲーム後の感想	
<p>講評にも頂きましたが、UFJ銀行の手の使い方(OF,DFともに)をもっとシビアに判定するべきだったと思いました。UFJ銀行はプレイヤーの数も多く、入れ替わりが激しいチームでしたので判定を伝える難しさを感じました。前ゲームにて針生さんにアドバイス頂いたことを全てやろうと思ってもできないと思いましたので、2つテーマを持ち修正できるようゲームに入りました。</p> <p>① ファンダメンタル ② フィール・ザ・ゲーム</p> <p>黒岡氏には、講習生として何をテーマにゲームに入ったかを質問されこのようにお答えしたところ、tryしていることははっきりわかったと言って頂きました。</p>	
実践実技3	
2014年2月10日(月)	対戦カード 女子 予選リーグ ミツウロコ(関東5) VS 今治オレンジブロッサム(四国1)
副審 下 清孝	相手審判 東京都 前橋 裕之氏 (講習生)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア3の見方の確認 基本トレールレフリー</li> <li>・リードが右に来た時のトレールの協力</li> <li>・ボクシング・インを意識して、2人でゲーム運営を行う</li> <li>・アイ・コンタクト等で常にコミュニケーションを取る</li> </ul>	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 愛知 青木 俊博氏 (東海ブロック長 A)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に見ると2人でよくゲームを運営していたと思う</li> <li>・2人で常にコミュニケーションを取りながらゲーム運営をしていたのがよく伝わった</li> <li>・プレーの見方についてだが、ポスト・プレイヤーのターンからの1on1に対して、トレールは横のスペース、リードは縦のスペースと1つのプレーに対するスペースを分担、協力するよう意識するとより判定できるものが増えてくるのではないかと。</li> </ul>	
ゲーム後の感想	
<p>ミツウロコは小型で機動力のあるチーム、今治はポストプレイヤーを軸にオフェンスを組み立てるチームでしたので両チームの特徴を早い段階で捉えることができたかと自己分析します。</p> <p>判定基準の一貫性につきましては、4Pの途中までは波が少なかったと青木氏に言って頂きましたがクロス・ゲームだったこともあり、ゲーム終盤には私が過敏になってしまうケースもいくつかありました。</p> <p>相手レフリーの前橋さんとはゲーム中にもコミュニケーションをとり、お互いの判定基準の摺合せや確認をし、2人でゲーム運営ができたのではないかと思います。</p> <p>青木氏には「お二人が3日目の割当を勝ち取れた理由」を、「ファンダメンタルができていないこと」とお話し頂きました。</p> <p>大会期間中、初日に針生氏に指摘して頂いたことを多少なりとも修正できたことは私の中では大きな収穫となるゲームでした。</p>	

## まとめ

レフリー活動をしていく上で一つの目標でありました、全国大会に初めて行かせて頂きました。初めての全国大会の舞台ということもあり、普段北海道並びに地区で指導して頂いていること、自分のできることを精一杯やってみようと思い大会に臨ませて頂きました。結果、目標としていた大会3日目の割当を頂く事が出来ましたことは私にとって、とても自信となるとともにこれまで北海道並びに地区でご指導して頂いたおかげと思っています。

また、現役国際審判をはじめたブロックの方々と交流させて頂いたことはこれからの私の審判活動におけるモチベーションをさらに高めて頂きました。今回の経験を自分のレフリー活動はもちろんですが、北海道並びに地区に還元できるよう努めて行きたいと思えます。

最後になりますが、今回このような機会を与えて下さった北海道協会、北海道実業団連盟、北見地区協会の関係者の皆様にご場をお借りしお礼申し上げます。ありがとうございました。